

プログラムの概要

私たち腎臓内科では、腎機能障害、血尿、蛋白尿などの診断や、糖尿病性腎症、腎硬化症、IgA腎症など慢性腎臓病の治療、急性腎障害に対する血液浄化療法、腎移植など、幅広い腎疾患の診療を担当しています。「specialityもgeneralityも ~志高く両立を目指して~」を基本コンセプトとした研修プログラムによって、腎臓領域にのみにとどまらず、分野横断的視点とともに、内科学全般の幅広い知識や技能を身に付けることを目指します。

アピールポイント

●「Nephrology for everyone」

私たちは患者、医療従事者、地域社会、そして「あなた」自身も含め、あらゆるひとの未来に寄り添うことを心がけ、腎臓内科学を実践します。

● 2つの欲張りポイント

① 特定分野に特化し高い知識・技能を有するスペシャリスト ② あらゆるセッティング・プロブレムに柔軟に対処できるジェネラリスト

今までは二項対立、究極の選択などとして語られがちだった両者ですが、少し欲張って両者が融合された“ジェネシャリスト”に育ってほしいと考えています。腎臓内科の包括する分野は幅広く、“全身を診る内科”ともいわれています。スペシャリスト・ジェネラリストどちらに進むべきかといった不毛な選択はやめにして、腎臓内科での研修を通じてどちらも目指してみませんか？

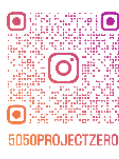
● 山梨大学腎臓内科ではどんな仕事をしているの？

私たち腎臓内科、実はとても多彩な診療をしています。内科ではありますが、血液透析患者の内シャント手術、腹膜透析患者のカテーテル挿入術、腎臓病の診断の要である腎生検など、技術を駆使した手技を幅広く行っています。腎生検の組織所見から確定診断を行い、患者さんに最適な治療法を選択することや、頭脳をフル活用させて、慢性腎臓病患者の検査データから、過去から現在、そして、将来の腎機能を見通し、患者さんに最適な治療法を提供しています。さらには、腎臓病の原因となる高血圧、糖尿病、膠原病に対する治療、血液透析や腹膜透析など腎不全患者の管理を行っています。山梨県の腎臓病診療において、どれをとっても欠かせない価値ある仕事をしています。



具体的な研修内容

通常、5-7症例前後の入院患者を受け持ちます。基本的な指導体制としては、卒後10年以内の若手医師とそれ以上の指導医と屋根瓦式でチームを組み、より実践的な指導を行っています。学生時代からはじめるシームレスな教育、初期臨床研修・後期臨床研修の時期に応じた献身的な教育を心がけており、病歴聴取、身体診察、臨床推論などといった基本的な部分から始まり、中心静脈カテーテル挿入や腎生検、さらには内シャント造設、腹膜透析カテーテル挿入などといったかなり専門的な手技まで幅広く経験することができます。対象疾患もIgA腎症、糖尿病性腎症、腎硬化症、微小変化型ネフローゼ症候群、膜性腎症、膜性増殖性糸球体腎炎、紫斑病性腎炎、間質性腎炎、ループス腎炎、遺伝性腎疾患(アルポート症候群など)、多発性嚢胞腎、急性腎不全、急速進行性糸球体腎炎、慢性腎臓病、高血圧、リドル症候群など多く、超急性期から慢性期まで幅広い対応力を身につけることができます。



私たちのこと
← もっと詳しく
知ってませんか？